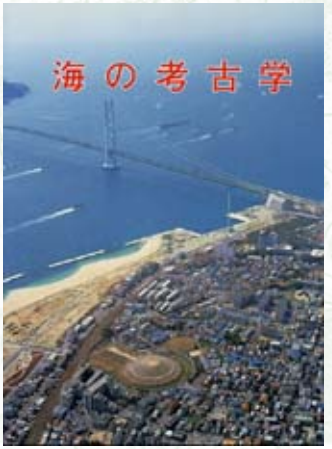
第71回特別展

海の考古学

　海は、古代人にとって生活の基盤のひとつであっただけではなく、縄文時代以来広範な交流を行う際の交通路としても機能し、文化を結びつける海の道としての役割も果たしてきたともいえる。弥生時代開始期の稲作文化の朝鮮半島からの伝播など、その後の日本の文化に多大な影響を残すことになった国際的な文化交流も、海を介してのものであった。 そして、古代から人々は畏敬と畏怖の念を持って海に接してきたことが、遺跡の立地や出土した遺物などから窺うことができる。古墳時代になると、海の道を掌握することは政治的・軍事的な重要性を持つまでになり、五色塚古墳のように明石海峡の海上交通を支配した豪族の墓ではないかといわれるような、シンボル的な古墳も築かれるようになる。 このような海と密接な関わりを持ってきた遺跡と、その出土資料にスポットをあて、古代人の海への想いを再認識する展覧会として開催された。

　また、会期初日には初めての試みとして、小中学生を対象として特別展会場において、「子どもスケッチ大会」を開催した。作品は、子どもたちの作ったキャプションとともに会期中会場内で展示し、好評を得ている。



会期／平成12年4月22日（土）～5月28日（日）
会場／特別展示室2、南蛮美術館室
主催／神戸市立博物館、文化庁
協賛／三菱電機株式会社兵庫支店
開催日数／32日
入館者数／7,928人
出品件数／約450点

桜ヶ丘出土銅戈